

## 「2019 ITEA北海道支部安全大会」開催

無意識を 意識に変える指差し呼称  
早めに摘み取る危険の芽



情報通信エンジニアリング協会 北海道支部

### 北海道支部安全大会 実施概要

2018年は、9月6日胆振東部地震による北海道全域でブラックアウトが発生して、残念ながら大会が中止されました。2019年においては心を新たに北海道の協会会員の安全施工に対する意識統一と、各社の取組施策の共有を目的に、9月10日（火）札幌コンベンションセンターにおいて、「北海道支部安全大会」が総勢350名の参加者によって開催されました（写真1）。

来賓として参加いただいたNTTグループ幹部の方々のご紹介の後、大村北海道支部長の開催挨拶で幕を開け、その後本部の藤田専務理事挨拶、ご来賓を代表してNTT東日本 高橋北海道事業部長様からの挨拶をいただきました。

2018年度は痛ましい死亡事故が3件、2019年度に入っすでに2件の死亡事故が発生し、負の連鎖が断ち切れていない現状から、皆様からのご挨拶には、『北海道で決して死亡事故は起こさせない』『安全最優先を徹底する』という強い意志がメッセージに込められていました。

続いての特別講演は、医療法人社団 五稜会病院札幌 CBT&EAPセンターの中村副センター長による「メン

タルヘルスの現状と企業に求められるメンタルヘルス対策」と題しまして、「労働者のストレスとメンタルヘルスの現状、ストレスとは何か、職場としてストレスの問題にどう取り組むか」という内容で講話が行われました。

休憩をはさんだ後半は、支部会員4社による「安全品質の取り組み施策」の発表、次に各社代表からの「安全決意表明」が大村支部長に手渡され、最後に参加者全員による「安全スローガン唱和」を行い、盛大な大会を終了しました。

また、会場後方には、展示エリアを設け、清水勸業様、マサル工業様の2社とつうけん人材開発部が物品展示を行い、開会前と休憩時には参加者が興味深げに見学していました（写真2）。



写真2 展示エリア



写真1 会場風景



司会：(株)つうけん 白井社員

### 大村支部長挨拶

大村支部長からは、冒頭、「この場はITEA北海道支部として事故を起こさないぞという意味での意識合わせの場と思っている。事故の発生状況を含めて、現状を皆さんと息を合わせて、北海道では人身・設備を含めた事故を起こさないという決意を新たにしたい」との意気込みが語られました。

続いて、2016年度から2019年度の「絶対にあってはならない死亡事故の発生状況」について説明がありました。

「2016年から4件、3件、3件と発生し2019年ではすでにITEA会員から2件の死亡事故が発生している。幸いにも北海道支部では起きていないが基本動作の欠如、思い込みといった不安全行動を排除、安全行動に徹して絶対に起こしてはいけない死亡事故を撲滅していきたい。

NTTグループ発注別人身事故の状況では、NTT東日本関連が他の会社に比べて事故が多い。ITEA会員の人身事故は2016年度から減少傾向にあるものの、2019年は昨年8月末と比べると2倍の9件発生、そのうち2件が死亡事故となり、非常に危機的状況となっている。しかしながら、我々も昨年、一昨年と人身事故を起こしているのが今年度は事故を起こさないように皆さんと気持ちを合わせたい。

人身事故の要因としては、なぜか「転倒」が多い。脚立であったり移動梯子であったり、いろいろな作業でバランスを崩している事を考える、何かしら無理な姿勢、無理な作業内容かもしれない。北海道的にはこれから雪も降るし足場も悪くなるので今まで以上に安全な体勢・姿勢も含めてきっちりと確認しながら作業をしていただきたい。

最後に、12月に下期安全推進期間が始まります。雪の降る冬季に向かっていく中で、我々は事故を起こさない決意で、今年度安全に作業を進めていきたい」と締めくくられました（写真3）。

## 藤田専務理事挨拶

藤田専務理事からは、今年度の死亡事故が発生したことに関連して、安全への取り組みについて語られました。

「直近で起きたバケット車での死亡事故がありました。工事の終りがけに、最後の確認でバケットを上げて補助ロープをしないで作業したケースです。『あと少しだからいいや』と近道行動を取ったと思われる。これが非常に危険だと思います。作業の一番最後のところが大切で、現場KYTから終了ミーティングまで、常に安全を確認する取り組みを実施していただきたい。



写真3 大村支部長  
大会挨拶



写真4 ITEA 藤田専務理事  
挨拶

日頃からよく言われることは、基本動作の徹底が一番大切です。ITEAでは人身事故撲滅のため、再発防止の取り組みを重要視している。安全の鉄則、安全作業手順書等を作成して皆様の方に配布している。活用していただきたい。

最後に台風15号の大雨で千葉県に支援をいただき、ありがとうございます。災害等で違ったエリアの場合、作業手順が違うケースがあるが、そういった時こそ普段の作業を念頭において作業していただきたい」とご挨拶いただきました（写真4）。

## 高橋事業部長様 来賓挨拶

高橋北海道事業部長様は、大会に招かれた事への謝辞に続いて、NTT東日本の状況についてお話をされました。「北海道の状況は、昨年度全社で72億の連結営業利益を出した。これは震災の影響があった2018年度光開通が14万で計画に対して大きく達成できた。農村地域をはじめとして、AIとIoTが進んでいくと、人口の少ない所を含めて光のカバーを広げていくかという創意工夫の結果だと思っていて、結果として昨年は97.3万と光サービスの基盤ができたことが大きい。

今年度は今年のうちに100万回線に到達しようと取り組んでいる。実は8月末現在で99万2千位で、あともう一息で100万の万台を北海道エリアで迎えられるところまで来た。

ここまで来られたのは我々の会社、パートナー会社の営業力だけではなく、これを確実にしていただいたのが、ここにいらっしゃる会員の皆様のご協力です。北海道では開通の品質で、バックオーダーを減らして行こうと取り組んでいます、エリアをまたがって広域で稼働を融通しあって早期の開通につなげている。このパワーは広大なエリアである北海道ですが全国一だと私は思います。ここに支えられて何とか我々も頑張ってきたというのが光の基盤だったような気がします。」

次に、NTTグループが今後どう取り組んでいくかについてお話されました。

「今までやってきた通信の成長に加えて、グループ総体でいうと、デジタルトランスフォーメーションシステム、これは我々自体もそうですが、お客様のデジタルトランスフォーメーションを支援する。それから我々東日本は、地域の活性化に貢献していこうということをグループ一丸となって取り組んでいます。地域の活性化という観点では、広大な北海道は地域課題がいろいろあり、例えば農業分野においてメガバンク化が進むと、就

労人口が減少したり、海外との競争であったり、このことに対してさらに生産性を上げていき良いものにして、ブランド化をもっともっと進めていくことを考えていく時期が今まさに迫っています。我々はこれをICTを活用して光基盤を作りながら積極的に解決していきます。今後、ITEA会員の皆様にお世話になることがあると思います。』

次に最近の事故についてお話されました。

「過去10年を見てみると年間30件ぐらい人身事故が発生している。ここ数年で1.5倍程度増えている。今後増加するのではと非常に懸念している。5月に新潟で起きた人身死亡事故は、バケットにトラックが接触して、バケットにいた方が投げ出されてお亡くなりになったという非常に痛ましい事故です。ひと通りの工程を終えてもう一度という時に、保安柵もしないで安全帯も省いてしまった。これがあったとしても飛び込まれはあったかもしれません。ただ人命にかかわる事態にはならなかったと思います。恐らく通常の作業の時にはやられる基本動作が、その作業を終えた次の瞬間に、おろそかになってしまった事が事故につながったと思います。幸いにして、北海道管内において今年度、こういう人命に関わる事故が発生していない。ただ、秋から冬にかけて環境が非常に悪くなる時期なので、ぜひご配慮いただきたい。今年は、今のところ環境に恵まれているので、今一度基本動作をしっかりと見ていただくことをお願いします。

最後にNTTグループで人身事故が絶えないという状況ですが、まずは本日ここにいらっしゃる現場第一線を支える皆様に、何事においても安全という事を最優先に作業を進めていただき、安全があって先に進めることで実現できると思います、ぜひ、気持ちを1つにしてお願いを申し上げます。

『それでは、ご安全に!』と締めくくられました(写真5)。



写真5 高橋北海道事業部長  
来賓挨拶



写真6 中村 亨氏  
特別講演

## 特別講演 「メンタルヘルスの現状と企業に求められるメンタルヘルス対策」

特別講演は、メンタルヘルスの現状と対策で今どの位のメンタルヘルスの不調者が出ているか、今メンタルヘルス対策を会社に強く求められているが、いったい何を求められているのか、重視される点が前と変わってきている。メンタルヘルス不調者の症状ではなく、いったいどういう能力の低下があるのか、そして最後に企業が求められるメンタルヘルス対策について講演していただきました(写真6)。

多岐にわたった講演内容の中から、一部を紹介します。

「世界で生涯一度でもメンタルヘルスの状態、病名になる人はどの位いるか? 先進国のデータでいうと約半分と言われている。ただ、受診率が非常に悪い。2~3人に1人しか治療を受けていない。日本の場合はもっと悪い、治療を受けているのは約1/3位。うつ病だけでいうと約1/4位となる。ではどうして治療を受けなくても何とかなっているか。メンタルヘルスの病気は重症の方の比率が少なく、軽症から中症レベルの方が多い。何かおかしいと感じていたとしても、なんとなく誤魔化して仕事や生活をしている。何とか失職にならない程度に仕事ができている人が非常に多い。もちろん、治療すれば良くなる可能性もあり、治療しなければどんどん悪化していく。

メンタルヘルスの病気はよく心の病と言われるが、実際は人生に相当影響を与えます。まず平均寿命が短い。今平均寿命80歳位ですが、メンタルヘルスの病気が重症化すると大体60歳台で亡くられる方がいます。心の病と言うのは嘘です、健康全体が阻害されます。また、失業率が高いです。働けなくなる可能性が高いので社会的健康度も下がります。

さて、今度は働いている人の中にメンタルヘルス不調者がどの位いるか? 年齢だけで区切ると大体15歳から64歳の就労年齢人口の常に15%の人がメンタルヘルスの病気を抱えていると言われている。これは良くなってメンタルヘルスの病気が付かなくなる人たちがいますが、新たに病名が付く人がいるので常に15%位の人は維持されていると言われている。実際に働けない人もいますので、仕事を持っている人でいうと約1割程度と考えられています。この中には何の病気にするか、診断がついていない人も、受診しない人もかなり含まれているので、厳しめにするると9%で緩くやると13%近くなる。職場には1割くらいメンタルヘルスの病気を抱えている人がいる。」

## 各社からの「安全品質の取り組み」発表

支部会員各社の発表内容は以下のとおりです。

### ◆日本コムシス(株)

「2019年度 事故“ゼロ”に向けた取り組みについて」  
 ・昨年発生した「電動回転工具による裂傷事故」の発生原因と再発防止の取組みについて説明。  
 ・2018年4月から全社にて「事故撲滅の6つのポイント」を展開して、班長・現場代理人が実行すべき行動基準を相互に確認しコミュニケーションを図って、不安全行動を排除し、事故ゼロを目指す取組みを発表(写真7)。

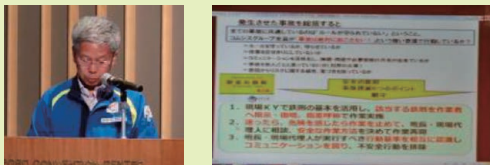


写真7 日本コムシス(株) 西村 透

### ◆(株)協和エクシオ

「ヒヤリハット情報共有システム『あるある君』の紹介」  
 ヒヤリハットの出来事(インシデント)をシステムへ投入する、エクシオのシステム『あるある君』の運用状況を発表(写真8)。

- ①「あるある君」の特徴と運用
- ②「あるある君」月別の事例紹介
- ③スマホでの活用事例

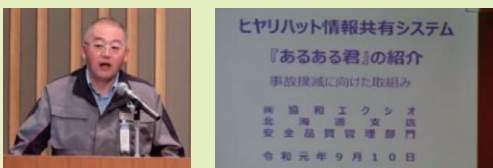


写真8 (株)協和エクシオ 関井 公夫

### ◆(株)ミライト 「2019年度 安全品質の取り組み」

ミライトドコモEG部事故風化防止PJによる同じ理由で事故を起こさない墜落事故防止の取組みについての発表(写真9)。

- ①高所作業時の双方向確認施策
- ②フックかけ違い防止施策



写真9 (株)ミライト 市川 大輔

### ◆(株)つうけん

「バケット車ステップ部の防滑対策品の検証」

昨年度バケット降車時において、ステップの滑り止めがない角部分に足を掛け、滑ってバランスを崩し転倒した。対策としてステップ部に効果の見込める防滑対策品として5品目選定し検証について発表(写真10)。

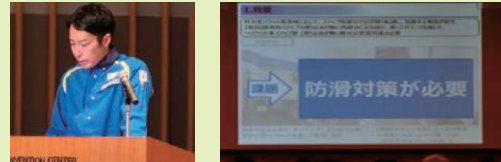


写真10 (株)つうけん 藤井 孝之

## 各社代表による安全決意表明

安全に留意した作業を行い、絶対に事故を起こさないという強い決意が、各社の代表者により表明され、大村支部長に表明文が手渡されました(写真11)。



写真11 安全決意表明

## 全員で安全スローガン唱和

参加者全員が起立し、ITEA北海道支部の「令和元年度安全スローガン」を唱和して、大会の最後を締め括りました。

リーダーの先導により声高らかに、気合の入った唱和が行われ、事故防止に向けて気持ちを新たにしました(写真12)。

令和元年度  
ITEA北海道支部 安全スローガン

無意識を  
意識に変える指差し呼称  
早めに摘み取る危険の芽



写真12 安全スローガン唱和 (株)つうけん 長谷川 剛